8月 21(金曜日)「神の国を説く」

【新改訳 2017】

マルコ　1•14、15

「ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べて言われた。『時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。』」

　これはルカにはなく、マルコによれば、主イエスの最初の公のメッセージだったと思われます。この簡素なメッセージは、キリスト教信仰のエキス(精髄)であると言えます。

　神のみわざは、神の時に従ってなされます。救い主としての誕生も、成長して今、公の宣教を開始されたのも、神の時を示していました。次は、「神の国」の「福音」の信仰であるということです。神の国は、神が支配し、治めている領域を意味しています。今、イエスがそこにおられることは、神の国が近いことであり、人類へのすばらしい福音(良い知らせ)だったのです。この福音を、今までの生き方を改めて、信仰によって受け取るように勧められました。お金や修行などによってではなく、信仰で受けなさい

というのです。これこそ、福音ではないでしょうか。

～祈り～

主よ。御国の福音を感謝します。これまでの生き方を悔い改めて、信仰によって受け入れることができるようにお助けください。

【学びのために】

「神の国」について:「国」は王国、ギリシャ語では、統治、支配などを意味する語。「神の国」とは、語義からすれば、「神の支配、統治とそれが及んでいるところ」。「神の御国」(天国)も同じ。マタイの福音書には特に後者が多く用いられています。